

水口岡山城跡

この城は、中央政府の確立に尽力した戦国大名、豊臣秀吉（1537-1598）の命により1585年に建設されました。水口岡山城の建設は、甲賀流忍者の歴史において大きな転換点となり、統治の仕組みは地元の有力家族による協力的な自治集団から、統一組織による地域支配型へと変化しました。高い石垣と瓦葺きの屋根を持つこの城は、地域で初の構造物であり、その規模に忍者たちは驚いたと言われています。

1600年、水口岡山城は攻撃を受け焼き払われたため、城主は城を放棄して逃げざるを得ませんでした。その直後、徳川家康（1543-1616）が権力を握り、初代徳川将軍となりました。

その後、1634年に、より小さな要塞、水口城が、水口岡山城があった山の麓に建設されました。家康の孫である徳川家光（1604-1651）のため一夜の宿泊所として建てられたものです。古城の石が新しい構造に使用されたと言われています。

水口岡山城の石垣の一部しか残っていませんが、その構造の輪郭は今でも山の中腹に見ることができます。一帯は公園として整備され、山頂からは市街地の全景が楽しめます。城跡は国の史跡に指定されており、水口駅から徒歩15分でアクセスできます。